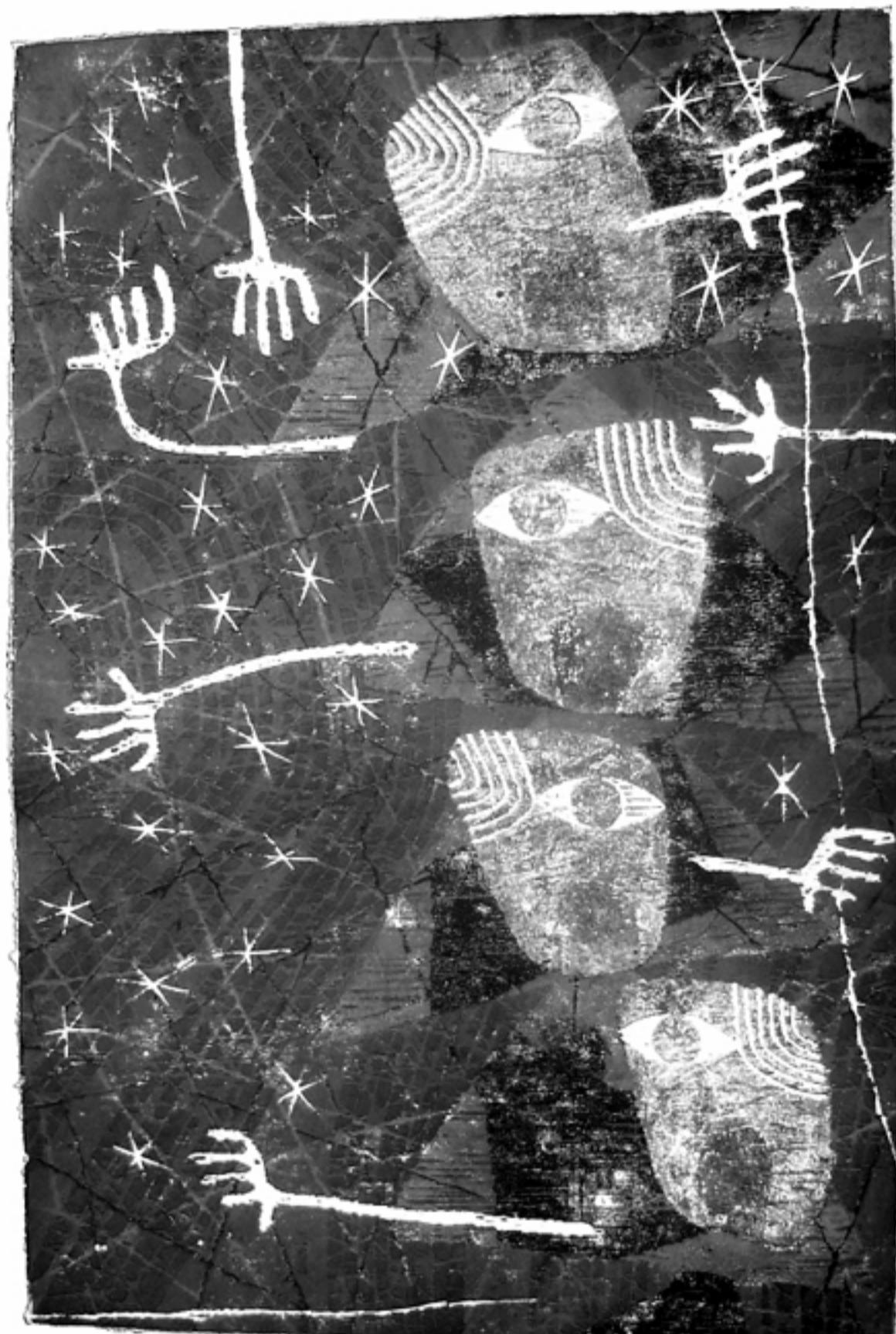


## •会報第7号の発行によせて•

今回の作家紹介では今年5月に平安画廊にて開催された『日本・タイ国際版画展受賞者展』の出品作家である角間貴生氏を取り上げました。また、新企画『ニッポン 工房の旅 津々浦々』は、工房や教室を運営されている作家の方にお話を聞き、そこから人と人の繋がりが出来ればと思い始めました。そして、文化庁からの海外研修に行っておられた坂爪厚生氏のオランダ研修の滞在記など、それぞれ大変興味深い内容となっておりますので、是非じっくりとお読み下さい。

## Kakuma Takao

角間 貴生



「星座 CONSTELLATION」  
92×61cm  
木版画(1版彫り進み)  
2006年制作

## C o n t e n t s

■会報第7号の発行によせて

■作家紹介 角間 貴生さん

■ニッポン 工房の旅 津々浦々 No.01  
アート工房創 鈴木 良治

■枯葉マークのオランダ滞在記—その1—  
坂爪 厚生

■公募展案内

■掲示板

■編集後記

作家  
紹介

# Kakuma Takao

角間 貴生さん



「作家活動とは何かを考える」をテーマに編集スタッフがお話を伺います。

今回は角間貴生さんです。角間さんは福岡を活動の拠点とし、銅版画や木版画などを制作されています。自然との交感をテーマに独自な宮沢賢治的心象イメージ世界を表現されています。

**Q1. ご自身の作品について（テーマ、コンセプト等）**

**Q2. 作品を作る上で、1番大事にされている所はどんな所ですか？**

**Q3. グループ（団体）に所属して作品を発表する事について、どう思いますか？**

**Q4. 角間さんは福岡にお住まいですが、九州の作家の作風や気質などがあれば教えて下さい。**

**Q5. 今後の作家活動について、将来の夢など教えて下さい。**

**Q6. 福岡のおすすめのお酒があれば教えて下さい。**

<A1>

光や風や星や月といった自然との対話から、ぼくの中に生み出されてくる様々なイメージ群…心象風景をテーマにしています。「イメージの豊かさ、想像力の豊かさ」こそが「生きることの豊かさ」と考えるからです。

<A2>

ぼくという個人的なイメージでありながらも、常にそれらのイメージが普遍的な一般性を持つものであることを考えます。具体的には絵の形や構成がフレッシュであることや相互の色面が美しくあることを願っているのですが…それがなかなか…(笑)。観念的な理屈や抽象的なテーマより、まずは誰にでも理解できストレートに感動してもらえる作品をつくれたら、といつも思っています。

<A3>

ぼく自身は美術大学の出身ではないし、30歳を越えてから独学で版画を勉強してきたこともあって、絶えずグループとの接触を求めていました。自分で九州版画会を立ち上げたり、日韓の交流展に努力したりしたのも、そんなぼくのコンプレックスからだと思います。今は京都版画会のみなさんとの交流から創作の刺激をもらえるし、色々な勉強をさせてもらえることがぼくの励みになっています。煩雑な事務的なことを京都の人たちにやってもらっていて、ただただ感謝しておりますデメリットは感じません。昨年末の福岡での日本・タイ国際版画展はそれはそれは大変でしたが…。

<A4>

もう通算して25年近くは福岡に住んでいることになりますが、未だに九州人という自覚がありません。ぼくのイメージの根っこは、二十歳近くまで過ごした故郷・北陸の原風景なものですから。昔の「九州派」といった運動などには九州らしい荒々しさのパワーがあったのでしょうかが、現在の九州の作家たちから、共通した九州気質みたいなものを特別に感じたことはありません。ぼくが付き合っている韓国・プサンの作家たちの方がローカルなエキサイティングさを感じます。



「シルエット」61×43cm木版画(1版彫り込み)2006年制作

<A5>

創作活動の出発点が遅いので、これからこそが本格的な作家活動と考えています。日本各地、そして世界各地で、制作ライブをからめながらの作品展を開いて、できるだけ多くの方々に絵を見てもらい感動を与えられる…そんな全国行脚、世界行脚がぼくの夢です。

<A6>

アルコールはいつもビールかワインしか飲まないので、福岡の日本酒についてはよく分かりません。聞くところによると、大吟醸「大手門」が通好みだそうですが…。ぼく自身は焼き鳥屋で馴染でもかしながら、みんなとわいわいビールを飲んでいるのが至福のときです。

プロフィール

1947年富山県高岡市生まれ

1983 国立九州芸術工科大学・版画研究室卒  
ヨーロッパ、アメリカ、インド、ネパールなどを旅行後、1983年より九州、東京、韓国、アメリカ合衆国、スペインなど各地で個展や展覧会を開催

主要な展覧会

個展 / 福岡市美術館(1983, 1984, 1986, 1987)由布院空想の森美術館など(1992、1993 大分)  
ギャラリーとわーる(1988, 1989, 1990 福岡) ギャラリおいし(1992 福岡) ギャラリー源(1995, 1996, 1997 福岡) 養清堂画廊(1996, 1997 東京) 久我記念美術館(1998 須恵) ギャラリー風(1998 福岡) MILESTONE ART WORKS(2001 富山) ギャラリーIRIS(2002 福岡) 個展/Gallery MESA, Gallery HILL, 石波美術館(1998, 1999, 2002 プサン 韓国) Gallery Jamiwon(2005 プサン)  
二人展 / 角間+本郷 R 展(1983, 1984, 1986 福岡市美術館) Pilkey&Kakuma 二人展(1994 Brady Commons Gallery, アメリカ合衆国) 角間+みね展(1999 ギャラリー風) 角間+井上敬一展(2001 SOHYANG GALLERY 韓国) グループ展 / 2001年の旗手展(1991 福岡県立美術館) JAPON Y ARTE 展(1994, 1995 Barcelona, Montilla スペイン) 九州現代版画展(1992, 1993, 1994, 1995 福岡、北九州、熊本) 島原アートプロジェクト(1995 島原) 長崎水の波紋'95(1995 長崎) 日本アジア現代版画展(1996 福岡県立美術館) 日韓現代版画交流展(1997, 1998, 1999 福岡アジア美術館) 韓日現代版画の模索展(1997, 1998, 1999, 2000 ソウル 韓国) International Exchange Show(1999 Los Angeles アメリカ合衆国) Seoul ICDEhibition(2000 ソウル 韓国)など

主要な入賞展

グフィナール国際美術展入選(1988 フランス) 飛驒高山現代版画ビエンナーレ入選(1999, 2001, 2005 高山, 岐阜) CWAJ 現代版画展入選(1995, 1996, 1999, 2000, 2003, 2005 東京) 大野城まどかびあ版画ビエンナーレ入選(2000, 2002 大野城, 福岡) 日本版画協会展入選(2002, 2003, 2004, 2005 東京) Seoul ICD Exhibition 入選(2000 ソウル 韓国) SPACE 国際版画ビエンナーレ入選(2002 ソウル) Busan International Print Art Festival 招待(2003, 2004 プサン) 日本・ブルガリア国際版画展(2003 京都, 徳島) 棟方記念版画大賞展入選(2004 福光) ランプリ池田満寿夫大賞受賞(2004 大野城まどかびあ) 日本・タイ国際版画展奨励賞受賞(2005 京都, 福岡) 山本鼎版画大賞展入選(2005 上田) プサン国際ビエンナーレ招待作家

所蔵

久我記念美術館(福岡) 由布院空想の森美術館(大分) 陝西省美術博物館(中国) 石波美術館(韓国) 大野城まどかびあ(福岡) ロサンゼルス・カウンティ美術館(米国)

その他

日韓アート交流会を主宰、版画京都展員、プサン大学芸術論集執筆、エッセイスト詩画集「らぶ◎すとーりー」絵本「イーハトーヴの空色切符」発刊 / 西日本銀行カレンダー制作(1992) 福岡市広報誌「鴻都」表紙制作(1998年より)  
HP→<http://members2.jcom.home.ne.jp/yumemaru/>

## ニッポン 工房の旅 津々浦々 No.01

アート工房創 鈴木 良治

委員会の方々の中に工房や教室を開かれている方も少なくないはず!? そんな思いつきから、それでは亀の歩みだけれどもゆっくりと紹介していくと思いつきこの欄をつくりました。 今回は『アート工房創』の鈴木良治さんにお伺いしました。

<Q1>工房を始められたきっかけを教えてください。

A. 鈴木美恵さんが始められた教室に絵画担当として参加したのがきっかけです。

<Q2>工房ではどんな事を教えておられますか?

A. 受験コース、一般コース、高学年チャイルドコースで、油絵・アクリル水彩・透明水彩・デッサン・粘土造形など教えています。



左  
鈴木良治  
『Jump II』  
リトグラフ  
90×70cm  
2002年制作



上 工房風景①

<Q3>ホームページを見ましたが、自由で楽しそうな印象を受けました。実際に教えられる中で発見する事や感じる事があれば教えてください。

A. 自分が知っていることを人に教えるには、欲しがっている情報が何かわざること。整理して伝えないといけない事。対話があって初めて進歩できるという事。皆違うこと。当たり前だと思うことが実は難しい事。教える事は難しい事。

<Q4>沢山の生徒さんと接しておられますが、教えられる中で何を一番伝えたいですか?

A. 楽しんだもの勝ち。自分を飽きさせずにいつも面白く出来る人は幸せです。楽しく成れば周りの人も観に集まってくる。好きな事を好きなだけする。

<Q5>工房での面白いエピソードがあれば教えてください。

A. ちびっ子達が大きくなって美大受験すると教室に来ること。

アート工房創  
〒770-0868  
徳島県徳島市福島 2-5-9-2F  
TEL: 088-625-8158  
HP→<http://www.tcn.ne.jp>  
/~artschoolsou/



工房風景②

## 枯葉マークのオランダ滞在記—その1—

坂爪 厚生

タイとの交流展のオープニングのすぐ後 9月30日関空を飛び立つ。夕方のアムステルダムは冷たい雨と風で、オランダはもう冬かよ~?といさかブルーな気分になる。幸い天気は持ち直し、例年になく暖かいというオランダの秋を楽しむことができた。

研修期間は 80 日ということでアパートを借りた。

4階建ての築?百年という石造りの家の1階、内部を改装したところで小ぎれいで洒落ていて気にいった。シャワーを浴びて日本風料理を作り、ビールを一杯…オランダ独身生活ばんざいだ。ただ早朝、2階の住人の足音などの物音にはじめのうち悩まされた。

オランダのレストランの料理は1人前が2人前、とても食べれない。その上大味ときている。1週間くらいは胃薬のやっかいになった。オランダは自炊にかかる? 日本の食材はアムステルダム中央駅の南の運河沿いに広がる中華街の小さなマーケットでほとんど手に入る。インスタントラーメンなどは中国製、韓国製といろいろ、日清の「出前一丁」も中国製で海鮮味やらバラエティーに富んでいる。これが結構うまくていろいろ食べた。この地域は運河を挟んで飾り窓地帯と接していて、狭い道の両端の飾り窓を片目に見ながら買出しにいった。ショウウインドウのなかの女性たちの迫力には圧倒される。

押しつぶされちゃう? 小窓から顔を突っ込んでたアラブ人?が、中に消えるやカーテンがさっと引かれた。このあたりは危険地帯といわれるが観光客が沢山歩いているし、それほど危険は感じなかった。この飾り窓地帯の南には旧教会がどっしりと建っている。細い路地をはさんで聖と性が向き合っている。人間の両面が背中合わせになっているようでどきっとする。これ、オランダ的風景? おおらか?自由?ひとそれぞれ?

ウイークデイは大体スタジオの AGA (Amsterdams Grafisch Atelier) に出かけ 5 時過ぎまでエッチングの制作をした。アパートからトラムを使って約 30 分の距離で、歩いても 1 時間足らず。オランダは自転車が便利というけど、ここの自転車のスピードにはついていけそうにないのでやめた。その代わり、トラム、地下鉄、バス共用のバス買った。AGA は、広いスペースにすべての版種の設備がそろい、充実している。とくに健康と環境に配慮した設備になっている。具体的なことは別の機会に話せればと思う。

文化庁という御印籠のおかげか、1 部屋を専用に使わせてもらい、鍵一式を借りて、いつでも好きなときスタジオを使うことができた。最初に夜の 9 時過ぎまで一人で仕事をしたときは、高い天井に並んだ蛍光灯のスイッチがどうにもわからず、あちこち電話し、技術指導員のクリスティーナに消しに来てもらうというおさがわせをしてしまったりした。



アパートの部屋から



プリンツェン運河



旧教会と飾り窓の家

スタジオでは亜鉛版でのエッチング作品の制作と並行して、技術指導員のエリックをつかまえフォトエッチングの技法を教えてもらった。感光乳剤の代わりにポリマーフィルムを使う方法だが、悲しいかな英語力の欠如、説明が十分理解できない。オランダ人はでかいのが多いが、エリックも190cmはあろうかという大男で、まさに食い下がる?という感じでいろいろ聞いて、どうにか3点の作品らしきものを作ることができた。

つづく



GAUにて  
左からマネージャーの  
ヨローン、技術指導員  
クリスティーナ、コー  
ディネーターのアフラ

AGA の HP→HYPERLINK "http://www.amsterdamsgrafischatelier.nl"  
www.amsterdamsgrafischatelier.nl

## ■第18回富嶽ビエンナーレ展■

<作品搬入>2006年11月26日(日)  
<応募規定>平面作品(壁面に展示可能な作品)・立体作品(日本画、油彩画、水彩画、版画、工芸、彫刻・造形)1人1点として、2005年以降に制作された未発表作品に限る。出身・在住・国籍は問わない。F130号(194.0cm×162.1cm)以内。  
<出品料>9,000円  
<会期>2007年1月2日(火)~1月28日(日)  
<賞>大賞300万円買上げ/準大賞100万円/優秀賞50万円/佳作30万円  
<応募要項・問い合わせ>〒422-8033 静岡市駿河区登呂3-1-1 静岡新聞社・  
静岡放送 事業局事業部内『第18回富嶽ビエンナーレ展』事務局  
TEL 054-284-1869(月~金の9:00~7:00) FAX 054-284-9031

## 公募展案内

(詳細を知りたい方は、募集要項をお取り寄せ下さい。)

### ■第5回大野城まどかぴあ「版画ビエンナーレ展」■

<作品搬入>2006年9月2日(土)・3日(日) 10:00~17:00  
<応募規定>15歳以上(中学生は除く)で住所は問いません。  
<作品規定>①版形式は、凸版・凹版・平版・孔版。②本人が制作したもので、公募展未発表のもの。③額装されていること。但し前面のガラス入りは不可。アクリル板に限る。④サイズは6号~30号以内(マットを含む)、厚さ5cm以内。(額を含む)⑤出品は1人3点まで。  
<出品料>1点につき 2,000円  
<会期>2006年9月30日(土)~10月8日(日)10:00~18:00  
<入賞・選出作品を多目的ホールに展示します。※最終日は15:00まで。  
<賞>池田満寿夫大賞30万円/大野城市長賞15万円/大野城まどかぴあ賞5万円/審査員特別賞3万円  
<応募要項・問い合わせ>大野城まどかぴあ「版画ビエンナーレ展」事務局  
〒816-0934 福岡県大野城市曙町2丁目3番1号  
☎092(586)4000 FAX092(586)4001  
<http://www.madokapia.or.jp/>

### ■あさご芸術の森大賞展■

<作品搬入>2006年6月1日(木)~8月25日(金)  
<応募規定>国籍、経歴、年齢不問。応募者本人が2004年1月以降に制作し所有する未発表の平面作品(個展、卒業制作展、学校展で発表したものは未発表とする)。立体、CG、映像作品不可。1人2点以。要項は270円の切手を同封の上、下記住所まで。  
<出品料>1点8000円、2点目4000円  
<会期>2006年10月21日(土)~11月26日(日)あさご芸術の森美術館  
<賞>大賞1点(300万円、作品買上)、準大賞1点(150万円、作品買上)、優秀賞3点(10万円)他  
<応募要項・問い合わせ>あさご芸術の森大賞展事務局  
〒679-3423 朝来市多々良木739-3  
☎079-670-4111 FAX079-670-4113

## 掲示板

会報にお寄せいただいた京都版画展の出品者の展覧会、活動情報です。詳細は会場等へお問い合わせください。

### ●朝日みお●

<展覧会>  
会期: 2006年9月19日~26日  
場所: 画廊シャノワール  
川西市小花1-8-1ジョイン川西1F  
TEL : 072-758-0811

### ●坂爪厚生●

<展覧会>  
会期: 2006年12月12日~28日  
場所: 平安画廊  
京都市中京区寺町三条上ル  
TEL : 075-231-0694

### ●柴田真由美●

<柴田真由美 版画展>  
会期: 2006年11月1日(水)~14日(火)  
10:00~20:00(最終日は午後5時閉場)  
場所: 大丸京都店6階 アートスポット  
〒600-8511 京都市下京区四条高倉西入  
TEL : 075-211-8111(代表)

### ●二階武宏●

<木口木版展>  
会期: 2006年9月6日~10月16日  
場所: ギャラリーアートグラフ  
愛知県名古屋市千種区末盛通4-13

### ●坪山由起●

<坪山由起銅版画の軌跡(仮称)>  
会期: 2006年9月18日~30日  
場所: ギャラリー美游館  
〒589-0022 大阪狭山市西山台6-1-16  
TEL : 072-367-5650  
  
<坪山由起銅版画展>  
会期: 2006年11月14日~25日(月曜休廊)  
場所: ギャラリー八十九  
〒658-0051 神戸市東灘区住吉本町1-6-8  
TEL : 078-845-9366

### 編集後記

お詫び…前号の会報で印刷時に左右が逆転したまま刷ってしまい誠に申し訳ございませんでした。以後、このような事がないよう気付けたいと思います。  
さて今回から『工房の旅』を始めました。何かの工房や教室をされている方がおられれば是非会報担当までご一報下さい。次回の発行は半年後を予定しています。皆さんからのご寄稿や、展覧会情報などを広く募集しておりますので、どしどしお寄せ下さい。それでは、今後とも宜しくお願い致します。尚、掲載希望の記事、情報等の送り先のお間違えがないようご注意下さい。

会報担当一同

